



医師：島田 潔

3月に在宅医療がテーマの映画「いのちの停車場」の試写を観ました。吉永小百合主演で、西田敏行が院長役と名演技です。広瀬すずが訪問看護師役、松坂桃李が国試浪人のアシスタント役と、若手も魅力いっぱいです。



医師：宇仁 淳

最近では「ラ・ラ・ランド」が印象的でした。軽快なメロディーで始まり、ダンスシーンはどれも美しく幻想的でしたが、夢を追い続けるには現実が突きつけられることを痛感しました。考えさせられましたが、結果ハッピーエンドだったと思います。



医師：藤井 秀樹

私はオペラが好きですのでオペラが絡んだ映画が好きです。有名どころでいうと「ゴッドファーザー」という映画にカヴァレリア・ルスティカーナというオペラの曲が使われており、このオペラを鑑賞するシーンもあります。他にも「プリティウーマン」でもオペラを鑑賞するシーンがあったりします。皆さんも映画でオペラの曲が使われていて気に入ったらそのオペラも観てみてください。趣味の幅が広がりますよ！



医師：鈴木 陽一

以前好きだったので、「STING」「摩天楼はバラ色に」など。数年前は「X-MEN」。その他、「Mission Impossible」「マトリックス」のシリーズ物も好きでした。この秋公開のトム・クルーズ主演の「Top Gun」続編も楽しみです。いずれも比較的軽く、疲れず、ハッピーエンド物で、複数回みる事もあります。途中で寝てしまうこともしばしばです。



医師：浅海 直

好きな映画は、洋画なら、雨に唄えば、ターミネーター、ジョン・ウィック、2001年宇宙の旅、邦画なら、日本一のホラ吹き男、エレキの若大将、砂の器、太陽を盗んだ男、東京ゾンビ、等です。



医師：伊藤 直

「海猿」と「貞子」の映画です。妻とは全く趣味が合いません。



医師：安井 宏仁

昔は映画をよく観ていました。「ユージュアル・サスペクツ」というサスペンス映画がお勧めです。ネタバレになるので内容は言えませんが、今観ても面白いと思います。



医師：三寺 隆之

最近観たものでは、「鬼滅の刃」がわかりやすく映画として面白かったです。好きなシリーズは「アベンジャーズ」ですかね。こちらもアメリカ映画らしく、わかりやすく面白いです。



医師：御子柴 路朗

映画を見ることはあまり多くないのですが、一時期、SPECシリーズのドラマと映画にハマった時期がありました。後は子供のお供でアニメの映画など付き合うことがありますが、映画館はあまり行かない方です。



医師：糸山 智

ターミネーター、プレデター、ランボー、ダイハード、マトリックス・・・ドンパチ物が好きです。スカッとします。泣ける映画は決して見ません。



医師：長谷川 大輔

だいぶ昔の映画になりますが“ニューシネマパラダイス”が好きです。映画の情景を部分的に見るだけで気が休まるような気がします。



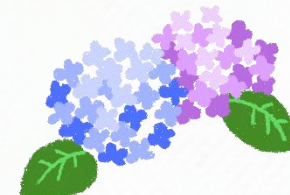
医師：中山 昇

『ロッキー』が好きです、特に『4』は単純明快でわかりやすく、見終わった後はシャドーボクシングをする自分がいました。映画内で使用される『training montage』って曲はイントロ聞くだけでシビれます。プロレス好きな三寺先生と浅海先生はきっと同意して下さりますよね？



医師：丹下 徹彦

子供の頃に見た「ジュラシックパーク」、中学生の頃に見た「レオン」、大人になってから見た「ザ・グレイテストショーマン」など色々あります。やっぱり映画は、映画館で見る特別感や迫力と、映画泥棒のCMがたまらないですね。



医療～豆知識～ コーナー

今月のテーマ：パルスオキシメーター 医師：鈴木 陽一



コロナ禍で知名度を上げた医療器具の一つに、パルスオキシメーターがあります。

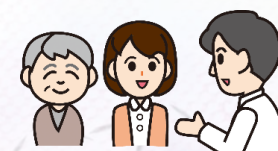
朝のワイドショーでタレントが「自分は購入して毎日測定している」とか言ったりしていますね。またコロナ陽性の自宅療養者の管理に、フォローアップセンターがカップ麺とかと一緒に療養セットの段ボールを送りますが、その中にもパルスオキシメーターが入っています。それほど、コロナ禍でメジャーになった器具ですが、1990年頃から徐々に臨床で使用されるようになり、小型化して現在の洗濯ばさみ程度の大きさにまでなって持ち運びが便利になっています。

一方で、解釈は気を付ける点もあります。指先の毛細血管を通過する血流に赤外線を充て、その透過性の差をみることで、ヘモグロビンの何パーセントに酸素が結合しているか(飽和しているか)を検査する機器です。

寒冷時や発熱で手指がとて冷たくなっているときは、血流自体をうまく感知できずに、測定値が不正確になります。

また、発熱や血中の二酸化炭素が多い方、腎臓が悪く血液が酸性の方は、酸素分子とヘモグロビンの結合が緩み、飽和度は低下してしまいます。

従って、数値はあくまで一つの指標ではあるので、一喜一憂せず、かかりつけ医から SpO₂値がどういう風に解釈すればよいのかを説明してもらうことが大事です。



～診療所の取り組み～

皆さまから頂いたご意見をもとに始める『新たな取り組み』についてご紹介します。



☆診察のご報告について

日々の定期診察、臨時診察において診察状況を『診察のご報告』としてFAX送信させて頂いております。数カ所の事業所様より「毎回2枚送られてくる」との声を頂いており、システム上のプログラム設定エラーでご迷惑をおかけしております。現在、関係職員とシステム設計会社に修正の依頼を行っており改善に取り組んでおります。原因の究明とシステムの改善には今しばらく時間が掛かりそうなおためご迷惑をお掛けします。

☆新規患者さんの受け入れについて

4月から、常勤医師1名(丹下 Dr)と非常勤医師2名(青木 Dr、大杉 Dr)の増員を行い診療枠を増やしています。丹下 Dr は警察病院循環器科出身で当院で8年間の在宅医療を経験したのちに常勤医になりました。青木 Dr は帝京大学附属板橋病院の消化器内科所属、大杉 Dr は順天堂大学附属練馬病院の救急救命センター所属です。どちらの病院も当院とのさらなる連携強化を希望され、今年度から継続的に医師の勤務枠を設けることになりました。

これからも地域の皆さまに応援して頂ける診療所であるように職員と共に努力して参ります。